

# 九州生乳販連会報



No. 93

January 2026

## TOPICS

新年のご挨拶	1
酪農情勢報告	6
令和8年度生乳取引について/激甚災害に係る見舞金のご報告/監事体制の変更について	7
サンパエ対策について	8
令和7年度会員別生乳受託販売数量/令和7年度販売状況について/人事異動	10
令和8年度の加工原料乳生産者補給金及び	
集送乳調整金の単価、総交付対象数量並びに関連対策について	11
令和7年度月別受託生乳検査成績	11
特別寄稿「全国における酪農情勢・生乳需給と今後の動向について」	12
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告	14
酪農教育ファーム活動について	16

## 新年のご挨拶



九州生乳販売  
農業協同組合連合会

代表理事長 中村 隆馬

新年明けましておめでとうございます。

酪農家並びに会員役職員の皆様には、旧年中も本会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年に国内初の発生となったランピースキン病の感染拡大を防ぐために家畜の移動制限、患畜の隔離、殺虫駆除などの対応に始まり、8月上旬の豪雨災害では牛・牛舎・施設等の被害や生乳の廃棄に見舞われました。感染や豪雨で被害にあわれた酪農家の皆様へお見舞いを申し上げます。

また、ランピースキン病発生の際には防疫にご尽力いただいた酪農家の皆様や関係各位のご

協力に感謝申し上げます。防疫体制の研修会や皆様の実践やご努力もあって、九州で再発生となっておらず一生懸命に取り組んでいただきましたことに対しまして重ねて感謝申し上げます。

酪農を取り巻く情勢をみてみますと本当に先の読みにくい環境にあります。コロナ禍を脱し、世界中で経済回復に向けた活動を活発化していますが、先の見えない戦争や米国を中心とした通商交渉の結果が世界経済に影響を与えることが懸念されています。日本では米国との金利格差是正による円高誘導のために日銀の政策金利を0.25%引き上げることが決定しましたが、日本の財政不安から円安に向かっており、これ以上の円安は景気を後退させかねないため、政府・日銀の為替介入も考えられるような状況です。一方、経済成長のためインバウンドも増やしてきましたが、中国との関係が悪くなりインバウンド需要が冷え込むことも考えられます。また、国内消費においても円安による物価上昇で、消費者の生活防衛本能から食品をはじめ他の消費財も消費が減退しています。

我々酪農家の経営環境は多少良くなりましたがコロナ以前よりは厳しく、ピーク時から幾分は下がりましたが飼料、生産資材、燃料等の生産コストは高止まりしたままです。また、8年1～3月の配合飼料価格はトンあたり4,000円

以上値上がりし、下がりかけていた生産コストもまた上がることとなりました。ようやく先が見えてきていた中に、配合飼料の値上がりが経営に悪影響を及ぼしかねないことを危惧しております。

このような中、7年の乳価につきましては九州酪農の存続のために3回目の乳価値上げを申し入れました。2回にわたって乳価値上げとなったにも関わらず、廃業のペースは変わらないこと、コロナ禍時に借入した運転資金の返済ができるほど利益が得られていないこと、ランピースキン病の発生もあり現場の疲弊感や経営に対する将来への不安感が増している現状について訴え、6月分より乳製品・チーズ向け、8月分より飲用向けとはっ酵向けの乳価値上げを獲得しました。8年の乳価につきましては、値上げ後の消費動向を見極める必要はありますが、現状の酪農家においては、自給飼料増加にともなう労働時間の延長や休暇取得が困難となった労働環境の改善が必要であることを訴えました。今後、急激な情勢変化等があった時には、全国の他団体とも連携しながら乳業者に訴えていきたいと思っております。

生乳販売においては、生乳生産の減少から需要期の生乳供給が厳しくなっており、九州において長年の課題である需要期生産の重要性が高まっています。不需要期の加工処理も年々厳しくなっていますので需要期生産へのご努力をお願い致します。また、系統内外における需給調整については、7年度より生乳需給安定クロスコンプライアンスで双方が拠出し在庫対策を実施することとなりました。系統内外が不平等な需給調整とならないよう引き続き意見していきたいと思っております。

乳製品の在庫については、脱脂粉乳とバターの消費の跛行性から、脱脂粉乳の在庫が積み上がり4年度より生産者・乳業者・国が一体となって乳製品過剰在庫対策に取り組みました。乳価値上げによる消費者の買い控えから牛乳・乳製品の消費も減退しており、乳製品在庫の積み増しが懸念されています。Jミルクの見通しによると令和7年度末で8万4千トンの脱脂粉乳在庫が見込まれており、在庫が積み増す前に早めの対策に取り組むことも全国で決定され1月より

飼料用等への置き換えで1万2千トンの在庫削減対策に取り組むこととなっております。

年末年始の加工処理については、全国的に生乳生産が回復する中、値上げによる牛乳消費の低迷、一部量販店の年始の休業、加工処理施設の閉鎖から例年になく厳しいという見通しでありました。そのような中ではありましたが、全国で協調して配乳調整に当たり、全国的に処理不可能乳の発生はありませんでした。しかしながら、年度末の加工処理については、生乳生産の回復と消費動向によっては、処理不可能乳の発生も懸念されるところです。

8年度の畜産物価格については生産者補給金9.11円(前年度+0.02円)と集送乳調整金2.83円(前年度+0.10円)合わせて11.94円(前年度+0.12円)となり、交付対象数量は前年度と同じ325万トンとなりました。関連対策+25万トン(+0.01円)と合わせて対象数量350万トン、単価12.03円(+0.13円)となりました。一方では2025年度補正予算で、脱脂粉乳在庫削減対策、暑熱対策、畜産クラスター事業、酪農ヘルパー事業も拡充され、総合的対策で持続的な酪農乳業の構築と意欲的な生産者が希望をもって酪農経営を続けていけるように支えるために予算措置されました。

酪農理解醸成及び牛乳消費拡大につきましても、再三の値上げにより消費が減退していますので、引き続き重点的に取り組んでまいります。酪農理解醸成においては、酪農についての情報や牛乳・乳製品だけでなく食肉の供給を担っていることを伝え、不可欠な産業であることを訴えていきたいと思っております。また牛乳消費拡大においては、牛乳売場でのキャンペーンによる直接購買や牛乳とスポーツは栄養面だけでなく健康的なイメージでも親和性が高いので、双方を訴求することで消費拡大につなげたいと思っております。

最後になりますが、役職員一丸となって皆様方から必要とされる指定団体を目指して頑張りますので、より一層のご理解とご協力、そして九州酪農の発展のためにご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年の御挨拶といたします。

# 新年のご挨拶



九州農政局長  
緒方 和之

新年を迎えるに当たり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

九州は、西日本最大の生乳の生産地域であり、その安定供給を担う皆様方には、平素から酪農関連施策の推進に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、地政学的リスクや気候変動等の影響による食料安全保障上の懸念が継続する中、資材・エネルギー価格の高止まりや物流課題などが、我が国の酪農・乳業界に厳しい影響を及ぼしています。一方、訪日外国人観光客数の増加が消費を下支えし、乳製品を含む国産農畜産物への関心も高まるなど、明るい兆しも見られてきています。

このような中、昨年4月には、我が国の酪農乳業に関する中長期的な取組方針である「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（酪肉近）」が策定されました。この酪肉近にも「生産者が所得を向上させながら安心して生産していけるよう需給ギャップを解消しつつ、更なる国内需要の拡大のための取組が重要であ

る。」と明記されているように、酪農・乳業界全体で中長期的な視点を持ちつつ、課題を一つずつ乗り越えていく必要があると考えております。

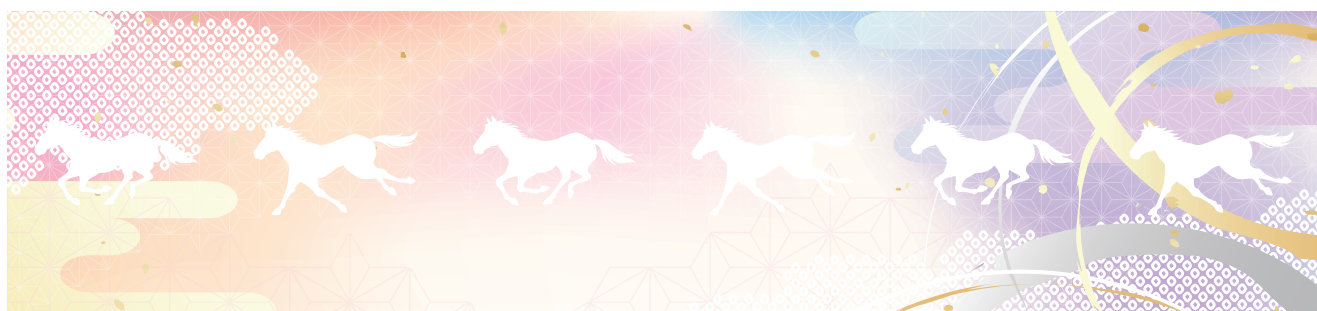
農林水産省としても、令和7年度補正予算において、需給改善のための支援として、引き続き、脱脂粉乳在庫対策を措置するとともに、国産チーズの競争力強化対策や、牛乳乳製品の新商品開発等の消費拡大対策、輸出拡大に向けた対策を措置したところです。

さらに、畜産クラスター事業については、安定的な経営を推進するため自給飼料基盤を有することを要件として、搾乳牛舎の整備支援を再開するほか、収益性の向上のみならず、経営の持続性にも着目した新たな支援メニューを措置することとしています。具体的には、国産飼料の生産・利用の拡大や家畜衛生の高度化、野生鳥獣害防止対策などの取組を一層進め、多様な畜産・酪農経営の維持・発展を図ってまいります。

また、牛乳乳製品の消費拡大については、「Jミルクを中心に業界が一体となって「牛乳でスマイルプロジェクト」に基づく取組を進めるとともに、農林水産省においても業界の皆様とともに、今後の需要拡大や需給の安定に取り組んでまいります。

本年は、新たな酪肉近の理念を着実に進展させるための重要な一年となります。九州農政局といたしましても、引き続き、管内の関係機関の皆様と連携し、現場での施策推進に全力で取り組んでまいりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、九州の酪農・乳業界の益々の御発展と、皆様方の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



# 新年のご挨拶



一般社団法人  
中央酪農会議

会長 山野 徹

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

酪農家並びに会員の役職員、関係者の皆様におかれましては、日頃より本会議事業への格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和8年の新春を迎えるにあたり、年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、酪農経営は、国際市況や為替の影響による飼料・燃料価格をはじめとした生産コストの高止まりなどにより引き続き非常に厳しい環境にあり、一昨年に1万戸を割り込んだ指定団体の受託農家戸数は、昨年10月時点で約9千4百戸と依然として高い離農率となりました。そうした中、指定団体の皆様のご尽力により、6月には乳製品向け、8月には飲用向けの乳価がそれぞれ引き上げられ、生産現場には一服感がでたものの、牛乳乳製品の価格改定による生乳需要の減少傾向が続いており、乳製品需要のアンバランスも相まって脱脂粉乳在庫は増加しました。これに対しては、業界一体となった需給変動対策の発動

による脱脂粉乳在庫対策の実施が決定しております。また、国においては、新たな酪肉近の基本方針が策定され、2030年度までの生産目標数量として現行水準並みの732万トン、業界を挙げた需要拡大の取り組み等を踏まえた上での参考値である「長期的な姿の生産目標数量」として780万トンが示されました。その中で、酪農乳業関係8団体が中心となり、需給の改善に向け「牛乳でスマイルプロジェクト」のもと、業界一体的な活動として需要拡大を一層強化する方針となりました。さらに、6月に成立した「食料システム法」は本年4月から本格施行され、牛乳のコスト指標の公表が開始される見込みとなっています。これらの動きを顧みれば、酪農にとっては、厳しい情勢の中で将来を見据えた方針や取り組みが精力的に動いた一年であったと言えます。

こうした困難な状況下においても、酪農家並びに会員の皆様は、高品質な生乳を生産し、牛乳乳製品を安定的に供給するべく、不断の努力と創意工夫に懸命に努められていると承知しております。

本会議におきましても、本年も酪農家並びに会員、関係者の皆様と共に力を合わせ、酪農業界の発展に尽力する所存です。困難な課題の多い情勢であるからこそ、次世代へ確かな形で酪農業を繋いでいくため、酪農が社会的な価値を持つ産業であることを改めて発信し、業界全体の発展に取り組んでまいります。どうぞ本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますとともに、本年が皆様にとって実り多き一年となりますことを祈念申し上げ、年頭の所感といたします。



# 新年のご挨拶



九州酪農政治連盟協議会  
会長 宮本 貞治郎

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。新年を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

九州生乳販売農業協同組合連合会の役職員の皆様、九州の酪農家の皆様、並びに関係者の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

平素より、当協議会の活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、貴連合会のご尽力により持続可能な酪農のため乳価の改定が実現し、今後の酪農経営に希望の兆しが見えた所ではありますが、我が国の酪農を取り巻く環境は、飼料・資材価格の高止まり、消費構造の変化、担い手不足の深刻化などにより、依然として極めて厳しい状況にあります。離農の進行による生産基盤の縮小は、もはや九州地域だけの問題ではなく、国産牛乳・乳製品の安定供給を揺るがす課題となっております。

食料安全保障の確立は国の重要な責務であり、国民の生命と暮らしを支える基幹産業としての酪農を将来にわたり維持していくことは、政府および行政が主体的に取り組むべき責任であります。合理的な生産コストを反映した適正な価格形成の実現、実効性ある需給調整の確保、経営安定対策の拡充については、国の強い関与と継続的な支援が不可欠であり、明確な政策判

断が強く求められています。

また、国政においては、高市首相が就任し政権発足以降、高い支持を得ておりますが、少数与党のため厳しい政権運営が続いており、現在の政治情勢は依然として不安定であり、政策決定には酪農現場や関係団体の声がこれまで以上に重要となって来ています。九州選出の国会議員の先生方には、引き続き農政の中核においてご尽力をいただいております。酪農・畜産政策への深いご理解とご支援を賜っております。

当協議会といたしましては、日本酪農政治連盟、九州・沖縄各県の酪政連組織、関係団体と緊密に連携し、九州の酪農家が直面する切実な課題を、単なる要望にとどめることなく具体的な制度・予算として実現するよう、現場の実情に基づく政策提言と要請活動を一層強化してまいります。改正関係法令の適切かつ実効的な運用、防疫対策への国の関与強化、将来を見据えた酪農経営安定制度の構築に向け、引き続き国政および行政に対し働きかけていく所存でございます。

また、後継者が希望と誇りを持って酪農を継承できる環境整備は、地域酪農を守り、日本の食を守る上で欠かすことのできない課題であり、その実現に向け全力で取り組んでまいります。

結びに、貴連合会並びに九州の酪農生産者の皆様のご健勝とご多幸、そして酪農政策が着実に前進する一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



# 酪農情勢報告

## 1. 九州の生乳出荷戸数

令和7年12月の生乳出荷戸数は925戸で、令和7年3月時点の975戸と比較すると50戸の減少となりました。

## 2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

10～12月の乳用種雌牛飼養頭数は、23ヵ月令以下、24ヵ月令以上、総頭数のいずれも前年を下回った推移が続いていますが、23ヵ月以下については前年比の回復が見られ、下げ止まりの傾向が見えています(表1)。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位:頭)

	10月	11月	12月
23ヵ月令以下	22,874	23,056	23,207
	増減 -571	-312	-149
	前年比 97.6%	98.7%	99.4%
24ヵ月令以上	68,891	68,591	68,410
	増減 -1,591	-1,790	-1,792
	前年比 97.7%	97.5%	97.4%
総頭数	91,765	91,647	91,617
	増減 -2,162	-2,102	-1,941
	前年比 97.7%	97.8%	97.9%

注:Jミルクホームページより

9～11月の出生総頭数は、乳用種雌が僅かに前年を下回った一方、乳用種雄・交雑種は前年を上回り、総頭数でも前年を上回りました(表2)。

表2 出生頭数 (単位:頭)

	9月	10月	11月	累計(9-11月)
総頭数	4,362	3,973	4,040	12,375
	増減 395	-19	-206	170
	前年比 110.0%	99.5%	95.1%	101.4%
うち、乳用種雌	1,087	997	912	2,996
	増減 74	-6	-97	-29
	前年比 107.3%	99.4%	90.4%	99.0%
うち、乳用種雄	415	342	392	1,149
	増減 40	-41	39	38
	前年比 110.7%	89.3%	111.0%	103.4%
うち、交雑種	2,028	1,997	1,922	5,947
	増減 209	86	-115	180
	前年比 111.5%	104.5%	94.4%	103.1%

注:Jミルクホームページより

## 3. 生乳需給

### (1) 生乳受託販売数量

10～12月の生乳受託販売数量は、9月までの暑さが徐々に和らぎ、生乳生産量の回復が見られ、11・12月はほぼ前年並みまで回復した結果、期間合計では前年を0.3%下回る水準となりました。また、都府県は前年を0.7%下回り、北海道は前年並みとなりました(表3)。

表3 生乳受託乳量 (単位: t、%)

	10月	11月	12月	累計(10-12月)
九州	42,394	42,256	44,648	129,298
	前年比 99.2%	99.9%	100.0%	99.7%
都府県	231,559	227,382	238,269	697,210
	前年比 99.5%	99.1%	99.3%	99.3%
北海道	326,797	314,798	331,491	973,087
	前年比 100.0%	99.7%	100.3%	100.0%
全国	558,356	542,181	569,761	1,670,298
	前年比 99.8%	99.4%	99.9%	99.7%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より  
注:公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

### (2) 生乳販売状況

10月は、9月までのひっ迫した需給が継続したため、域内需給の改善を優先した結果、域外向けの供給を制限せざるを得ず、飲用向けトータルでは前年を下回りました。しかし、その後は生乳生産量の回復とともに需給が徐々に落ち着きを見せ、域内飲用・域外飲用への供給に努めた結果、11・12月は飲用向けが前年を上回り、10～12月合計ではほぼ前年並みとなりました。脱脂粉乳・バター等向けは、10月下旬に発生した低気圧の影響でCSに一部の生乳が滞留し、加工処理に仕向けられたことや、昨年10月に乳製品工場の設備不具合により当該用途が大幅に減少していた反動もあって、10月は前年を上回りましたが、11・12月では前年を下回り、10～12月合計では前年を下回りました。

全国の用途別販売は、飲用向けが前年を下回った一方、脱脂粉乳・バター等向けは前年を上回りました(表4)。

表4 用途別販売数量 (単位: t、%)

	用途	10月	11月	12月	累計(10-12月)
九州	飲用(前年比)	30,990 97.6%	30,729 101.5%	28,625 100.1%	90,343 99.7%
	はっ酵乳(前年比)	7,436 99.8%	6,721 94.2%	6,704 108.8%	20,862 100.6%
	脱脂粉乳・バター等(前年比)	2,045 128.3%	2,227 96.5%	6,673 91.9%	10,946 98.0%
	生クリーム(前年比)	1,827 99.1%	2,484 99.6%	2,552 101.3%	6,863 100.1%
	チーズ(前年比)	96 100.2%	94 100.1%	93 99.1%	283 99.8%
	全国	飲用(前年比)	254,285 97.5%	234,382 95.9%	225,445 98.1%
はっ酵乳(前年比)		34,612 96.1%	32,717 95.6%	32,456 99.9%	99,786 97.2%
脱脂粉乳・バター等(前年比)		128,135 104.8%	131,285 106.8%	167,604 101.9%	427,024 104.3%
生クリーム(前年比)		108,197 100.2%	107,771 97.4%	105,428 98.3%	321,396 98.6%
チーズ(前年比)		33,127 102.1%	36,026 108.8%	38,828 106.4%	107,981 105.8%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より  
(7ページへ続く)

## 4. 今後の生乳需給について

今回の年末年始は、牛乳・乳製品の値上げによる需要の減少が見られる中、処理ができない生乳の発生が懸念されましたが、全国が協調した需給調整により、大きな混乱が生じることなく乗り越えることができました。また、年が明けた1月においても生乳需給の極端な悪化は見られていません。

一方、全国的には、飲用牛乳・ヨーグルトの消費低迷により脱脂粉乳在庫が積み上がっており、Jミルクは「酪農乳業需給変動対策特別事業」において脱脂粉乳の在庫削減対策を1～3月に1万2千トンを対象に実施することを決定しました。

今後の生乳需給は非常に不透明ではありますが、他団体とも協調して今後の対応を検討していくとともに、需要の維持・拡大に向けて酪農理解醸成・牛乳消費拡大に積極的に取り組んでまいります。

## 令和8年度生乳取引について

九州生乳販連の乳価については、令和7年8月より飲用、はっ酵向け+4円/kg、6月より脱粉、バター等向け+3円/kg(バター仕向け分のみ+10円/kg)、生クリーム等向け+3円/kg(生クリーム仕向け分のみ+10円/kg)、チーズ向け+3円/kgを実現することができました。

また、「令和8年度生乳取引交渉」は、「令和7年11月7日 第8回理事会、第2回生乳受託販売委員会」において、牛乳等の消費動向を見据え進むことを確認し、「令和7年12月3日付 令和8年度生乳取引について(要請)」文書を発出し、「酪農家の厳しい環境は改善されず、継続して廃業の危機にさらされているんだ」と訴えております。

今後も、不安定な世界情勢をしっかりと見極め生乳取引協議を進めてまいります。

## 激甚災害に係る見舞金のご報告

夏場の大雨による下記の災害が激甚災害の指定を受けたことから、中央酪農会議「生乳需要維持のための災害対応」が発動され、生乳廃棄被害に対する見舞金が支払われました。

九州地域は廃棄生乳量10,404kgに対して288,399円の見舞金を受け、廃棄量に応じて下記の通り会員へ配分いたしました。

この度の自然災害にて被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

### 1. 対象の自然災害について

- (1) 令和7年8月5日から9月21日までの間の豪雨及び暴風雨による災害

### 2. 見舞金の配分額について

- (1) 受入額 288,399円  
(2) 会員別配分 熊本県酪連 288,399円

## 監事体制の変更について

### 1. 監事名簿(令和7年12月23日現在)

役職	氏名	出身会員等	備考
代表監事	迫 竜一	鹿児島県酪農業協同組合	昇任
監事	野上 利幸	長崎県酪農業協同組合連合会	
監事	衛藤 彰一	熊本県酪農業協同組合連合会	新任

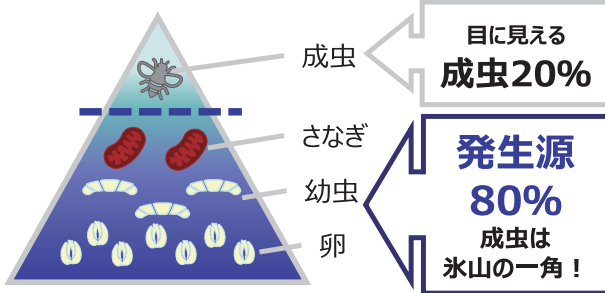
### 2. 退任監事(令和7年9月30日)

代表監事 小野 幾郎

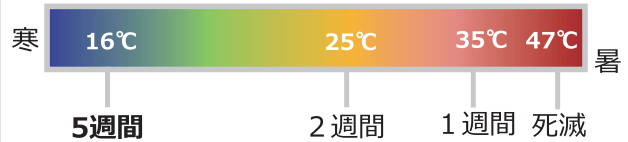
# 春先に向けたサシバエ対策で 牛を病気・ストレスから守りましょう！

はて？ 冬季のサシバエ対策？ 春・秋よりサシバエ見ないけど・・・

成虫がいる = 幼虫はもっと潜んでいる



温度とサシバエが卵から成虫になるまでの  
発育日数の関係



冬季は気温が低いので、発育速度が遅い！  
幼虫対策をすれば、殺虫剤を撒く回数も減少！

## 九州の冬季サシバエ対策は、寒いうちから！

スタートが遅れると、ハエの数は爆発的に増加します・・・

### 1. 幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！

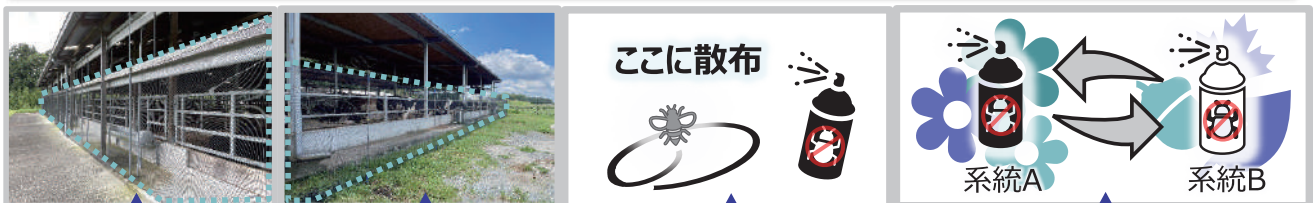


堆肥の切り返しは  
隅々まで！

牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、  
カーペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

つなぎ牛舎は  
バークリーナーへ散布！

### 2. 成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！



地面や床から2 mは防虫ネットで  
覆えるようにしましょう！  
隙間や穴がないか確認を！

殺虫剤は  
サシバエが飛ぶより  
上を狙って噴霧！

殺虫剤はローテーションを！  
噴霧量が十分か確認！

### 3. 対策は地域ぐるみで！ 関係業者もご一緒に！

写真協力：鹿児島県内酪農家、(独) 家畜改良センター宮崎牧場、住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社、エランコジャパン株式会社

# サシバエ対策、ここをチェック！

## 1 堆肥・敷料・残餌はしっかり管理できている！

- ・切り返し等により堆肥発酵時の中心温度が65度になることを確認
- ・牛床は清潔に保たれ、汚れた敷料や残餌は片付いている

いいえ

## IGR剤を撒き、幼虫対策をしている！

- ・バンスクレーパーが通る前にバークリーナーに散布
- ・牛の踏まない所を中心に散布（特に牛舎隅など）

いいえ

### サシバエ幼虫は、堆肥等の管理 + IGR剤で限りなく減らそう

サシバエの成虫1匹は、生涯600個もの卵を産む。冬の成虫1匹は来シーズンの1万匹に相当すると言われるほど、**冬季対策が重要**。サシバエの活動が低下している冬季だからこそ、**地域ぐるみで幼虫対策を**しましょう！

すばらしい！  
はい

その調子！  
はい



## 2 牛舎内でハエ成虫をほぼ見ない

いいえ

### サシバエ成虫を、牛舎内で見かけたら、対策徹底！

サシバエは農場内でも発生するし、他所からも飛んだり運ばれたりしてやってくる。地域ぐるみでの対策が重要。サシバエの持ち出しや持ち込みがないよう農場出入り業者にも**車内の殺虫**をお願いしましょう。

みんなのお手本！  
はい



## サシバエ成虫対策 3つのポイント

### 1. 殺虫剤はローテーション

同じ殺虫剤を連用していると、生き延びたサシバエが耐性を持つことがある。殺虫剤が効きにくくなる前に、**系統が異なる殺虫剤とローテーションで回していこう**。**十分な濃度・噴霧量で散布しているかも要チェック**。

### 2. 防虫ネットの設置

地面から2mの高さまで床から天井に向けて設置。**穴が開いてないか**定期的にチェック。

### 3. 下草刈りや防草シートの設置

サシバエが日中休息する**牛舎周辺の下草を刈ろう**。防草シート設置も効果的。

## 令和7年度会員別生乳受託販売数量

(単位: t、%)

	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県農協		鹿児島県酪協		合計	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
上期合計	28,423	98.7	5,632	99.8	14,854	98.4	121,437	98.1	32,302	101.2	33,598	98.5	29,707	97.8	265,952	98.6
10月	4,595	98.4	935	108.5	2,297	98.1	19,697	98.1	5,185	103.2	5,278	97.4	4,626	99.8	42,613	99.0
11月	4,504	98.7	933	104.4	2,319	98.0	19,727	100.0	5,125	101.1	5,206	97.1	4,662	101.5	42,477	99.7
12月	4,699	96.9	992	101.1	2,467	99.4	20,889	101.7	5,460	99.0	5,412	95.8	4,964	101.0	44,882	99.9
合計	42,221	98.4	8,492	101.3	21,937	98.4	181,750	98.7	48,071	101.1	49,495	97.9	43,958	98.7	395,924	98.9

## 令和7年度販売状況について

### 用途別生乳販売実績

(単位 数量:t、前年比:%、単価:円/kg)

用途	10月			11月			12月			第3四半期計			年度累計			
	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	
飲用等向け	域内飲用向け	24,485	99.9	138.347	22,419	102.1	138.558	21,205	96.4	137.822	68,109	99.5	138.251	211,218	100.2	136.475
	学校給食向け	4,329	96.4		3,624	87.4		3,375	103.6		11,328	95.3		29,958	98.7	
	域外飲用向け	2,351	78.5		4,851	110.9		4,199	119.3		11,400	104.7		36,397	91.3	
	飲用牛乳等向け計	31,164	97.4		30,894	101.4		28,779	100.0		90,838	99.6		277,573	98.8	
	はっ酵乳等向け	7,436	99.8		6,721	94.2		6,704	108.8		20,862	100.6		64,272	97.8	
	飲用等向け合計	38,601	97.9		37,615	100.0		35,484	101.6		111,700	99.8		341,845	98.6	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	2,069	127.8	101.780	2,265	95.8	102.502	6,739	91.5	98.082	11,073	97.5	100.070	33,507	101.5	97.693
	クリーム等向け	1,846	98.4		2,503	99.3		2,567	101.0		6,916	99.7		19,792	100.0	
	チーズ向け	96	100.2		94	100.1		93	99.1		283	99.8		780	92.9	
	特定乳製品向け計	4,012	111.7		4,862	97.6		9,399	94.0		18,272	98.4		54,079	100.8	
販売乳量合計	42,613	99.0	134.904	42,477	99.7	134.431	44,882	99.9	129.500	129.972	99.6	132.883	395,924	98.9	131.178	

### 支払乳代

(単位 金額:千円、単価:円/kg)

項目	10月		11月		12月		第3四半期計		年度累計	
	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価
基本乳代①	5,748,637	134.904	5,710,224	134.431	5,812,282	129.500	17,271,142	132.883	51,936,655	131.178
脂肪分加算金	34,753	0.816	44,411	1.046	54,047	1.204	133,211	1.025	341,856	0.863
無脂固形分加算金	44,863	1.053	53,603	1.262	60,619	1.351	159,086	1.224	426,856	1.078
成分加算金計②	79,616	1.868	98,015	2.307	114,666	2.555	292,297	2.249	768,712	1.942
季節別調整率③	105%	-	100%	-	93%	-	-	-	-	-
季節別調整金	287,432	6.745	0	0.000	-406,860	-9.065	-119,427	-0.919	997,695	2.520
調整後乳代④=①×③	6,036,069	141.649	5,710,224	134.431	5,405,422	120.435	17,151,715	131.965	52,934,350	133.698
販売手数料	17,485	0.410	17,425	0.410	17,781	0.396	52,690	0.405	158,116	0.399
生乳検査料	5,114	0.120	5,097	0.120	5,386	0.120	15,597	0.120	47,511	0.120
送乳経費	150,170	3.524	165,289	3.891	160,695	3.580	476,154	3.664	1,516,683	3.831
需要者負担額(運賃補填)	-1,412	-0.033	-1,911	-0.045	-1,382	-0.031	-4,704	-0.036	-17,708	-0.045
C S・冷却費	42,939	1.008	45,068	1.061	60,285	1.343	148,292	1.141	430,029	1.086
集乳経費	116,528	2.735	115,207	2.712	121,476	2.707	353,211	2.718	1,073,156	2.711
プール費用⑤	330,823	7.763	346,176	8.150	364,241	8.115	1,041,240	8.011	3,207,788	8.102
差引乳価②+④-⑤	5,784,862	135.754	5,462,063	128.589	5,155,847	114.875	16,402,772	126.202	50,495,274	127.538

## 人事異動

氏名	部署・役職	区分	発令日
桑野 英子	販売部	退職	令和7年12月31日

# 令和8年度の加工原料乳生産者補給金及び 集送乳調整金の単価、総交付対象数量並びに関連対策について

## 加工原料乳生産者補給金単価等

	令和8年度	対前年差
加工原料乳生産者補給金	9.11 円/kg	+0.02 円/kg
集送乳調整金	2.83 円/kg	+0.10 円/kg
ALIC事業(集送乳調整金相当) *1	0.09 円/kg	+0.01 円/kg
合計	12.03 円/kg	+0.13 円/kg
総交付対象数量	325 万トン	±0 万トン
ALIC事業 *2	25 万トン	+7 万トン

### \*1 集送乳の合理化への支援

今後予想される将来の集送乳経費の上昇を先行的に抑えるために指定事業者が緊急的に行う合理化の取組に対して、0.09円/kgの奨励金を交付。

### \*2 バター・脱脂粉乳の需給の不均衡改善への支援

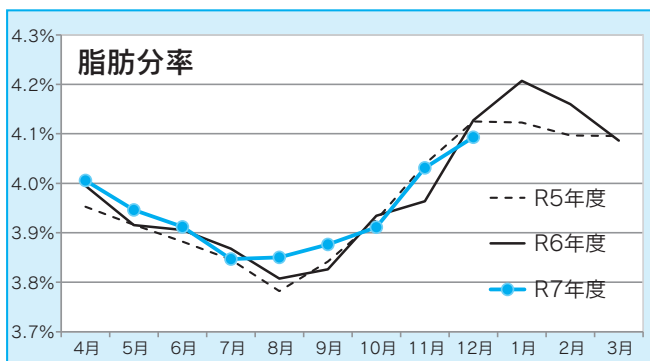
総交付対象数量を超過する場合、バター・脱脂粉乳需給の不均衡を改善するための取組を行う生乳流通事業者に対し、25万トンを限度として、対象数量に応じて以下のとおり奨励金を交付。

5万トン×補給金・集送乳調整金単価

20万トン×補給金・集送乳調整金単価×1/2(需要が見込まれるバター分のみに支援)

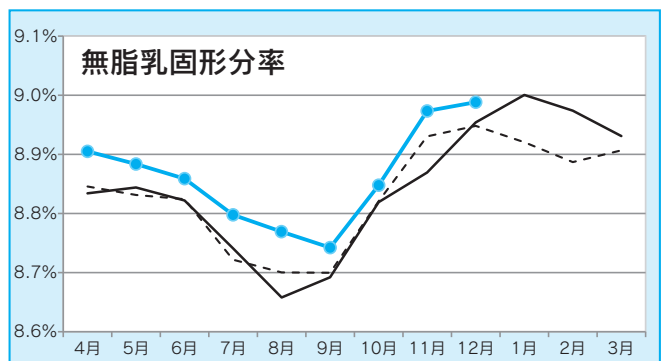
ただし、20万トンのうち7万トンは、脱脂粉乳在庫量8万トン以下を成果目標とし、未達成の場合は1/4。この対応は令和7年度分にも適用される。

## 令和7年度 月別受託生乳検査成績



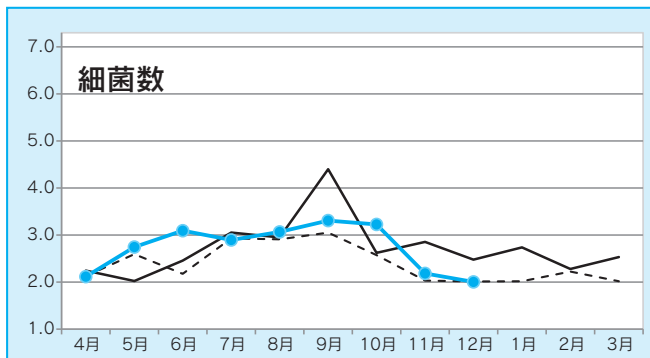
R5年度	3.95	3.92	3.88	3.85	3.78	3.84	3.93	4.04	4.13	4.12	4.10	4.10
R6年度	4.00	3.92	3.91	3.87	3.81	3.83	3.93	3.96	4.13	4.21	4.16	4.09
R7年度	4.01	3.95	3.91	3.85	3.85	3.88	3.91	4.03	4.09			

(単位: %)



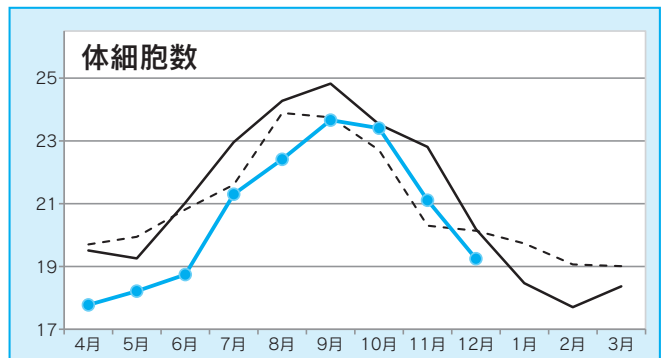
R5年度	8.85	8.83	8.82	8.72	8.70	8.70	8.82	8.93	8.95	8.92	8.89	8.91
R6年度	8.83	8.84	8.82	8.74	8.66	8.69	8.82	8.87	8.95	9.00	8.97	8.93
R7年度	8.91	8.88	8.86	8.80	8.77	8.74	8.85	8.97	8.99			

(単位: %)



R5年度	2.1	2.6	2.2	2.9	2.9	3.1	2.6	2.0	2.0	2.0	2.2	2.0
R6年度	2.2	2.0	2.5	3.1	2.9	4.4	2.6	2.9	2.5	2.7	2.3	2.5
R7年度	2.1	2.7	3.1	2.9	3.1	3.3	3.2	2.2	2.0			

(単位: 万/ml)



R5年度	19.7	19.9	20.8	21.6	23.9	23.7	22.7	20.3	20.1	19.7	19.1	19.0
R6年度	19.5	19.3	21.0	23.0	24.3	24.8	23.5	22.8	20.2	18.5	17.7	18.4
R7年度	17.8	18.2	18.7	21.3	22.4	23.7	23.4	21.1	19.2			

(単位: 万/ml)

# 全国における酪農情勢・生乳需給と 今後の動向について

一般社団法人中央酪農会議  
専務理事 菊池 淳志

## 1 酪農情勢

令和7年には、飲用等向け乳価が4円、また、乳製品向け乳価が3円(うち、バター、生クリーム向けは+7円)引き上げられました。

しかしながら、依然として飼料等生産コストは高止まりしており、さらに1月からは配合飼料価格が引き上げられ、このところ徐々に引き下げられてきた価格の低下分が相殺されるかたちとなっています。

このような中、全国の酪農家の戸数(指定生乳生産者団体(指定団体)が生乳販売を受託している農家戸数)は、前年比▲5%台といった高い水準での減少が続いており、7年10月には全国で前年比▲5.5%の9,370戸(沖縄県を除く)となりました。

こうした酪農家戸数の減少は、酪農ヘルパーやTMRセンターなど地域の支援組織の運営に影響を与えます。このほか、常々申し上げているように、酪農は数多くの関連産業との繋がりが、循環型農業の担い手、耕作放棄地を活用した国土保全など多様かつ重要な役割を果たしており、酪農の衰退は地域経済の崩壊にもつながりかねません。

さらに、中長期的には、これまで国産生乳で賄ってきた牛乳乳製品を供給できなくなる恐れもあり、国際情勢が不安定な昨今、食料の安全保障の面でも危惧される状況です。引き続き、酪農の現状や価値、果たす役割などについて、業界内外の理解醸成を進めていくことが重要です。

また、国は合理的な費用を考慮した価格形成に向け、飲食料品等の取引において、持続的な供給に要する費用等を示して協議することを定めた、いわゆる「食料システム法」を公布し、今年4月から本格施行することとしています。この法律では、コスト指標を作成する品目として飲用牛乳を指定することとしており、今後、飲用牛乳のコスト指標作成団体が認定され、来年度以降は、この団体が作成・公表したコスト指標を活用しながら価格交渉が行われる見込みです。中央酪農会議としても、持続的な酪農業の確立に向けて、生乳取引の実態を踏まえた対応がなされるようコスト指標作成団体等に対して働きかけて参ります。

## 2 生乳需給

全国の生乳供給量については、7年度上期は夏に記録的な猛暑となったものの予測を上回って推移しましたが、下期以降は24ヶ月齢以上の乳用牛頭数の減少などから減産に転じ、7年度

全体ではほぼ前年度と同水準の733万トン程度と見込まれます。

一方、用途別処理量については、飲用等向け処理量は、当初の想定ほどではないものの小売価格の改定に伴い減少傾向で推移しており、7年度全体では前年度を若干下回る384万トン程度と見込まれます。

このため、7年度の脱脂粉乳・バター等向け処理量は、前年度に比べ3%強増の186万トン程度となり、7年度末の脱脂粉乳の在庫量は8万トンを超えると見込まれています。こうした状況を踏まえ、生産者、乳業者が協働で実施している「酪農乳業需給変動対策特別事業」(乳製品在庫削減対策)が発動され、7年度内に1.2万トンの在庫削減に取り組まれることとなっています。

また、8年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しについては、1月下旬にJミルクから公表されると思いますが、乳用牛頭数の減少等から生乳供給量は前年を下回って推移するものの、脱脂粉乳の需要が低迷していることから在庫は積増しされる可能性が高いと見込まれます。このため、生乳生産できる環境を確保し適正な生乳価格を実現させていくためにも、継続して需給の安定に取り組んでいくことが重要です。

なお、この年末年始は例年にも増して生乳の完全処理が危ぶまれましたが、指定団体や関係者のご尽力によって処理不可能乳が発生することはありませんでした。皆様のご努力に改めて敬意を表する次第です。

また、この時期に合わせて、農林水産省のほか各省庁の大臣、高市総理大臣(自由民主党総裁)や多くの国会議員の方々に牛乳の消費拡大を訴えて頂いたことは、誠にありがたく、心強いものでした。

このように、広く多くの方々に酪農の現状や重要性をご理解、応援頂くことは、持続的な酪農を確立する上でも重要なことです。九州生乳販連、会員の皆様には、日頃より消費拡大・理解醸成活動にご尽力頂いており、中央酪農会議としても、各指定団体と協力しながら、酪農の役割・価値等について、業界内外の理解醸成に努めるとともに、消費の量的拡大のみならず適正な価格を形成する観点に注力しつつ活動を進めて参ります。

### 3 最後に

指定団体は、前述の理解醸成活動のほか、生乳の受託販売や需給調整、全農家の集送乳、安全安心の取組など大切な役割を担い、その遂行に尽力しています。そして、需給調整や価格交渉力の強化などにおいて経済的な合理性を有しているからこそ、国内生乳の9割以上を占めるといった極めて高い水準で酪農家の方々に集結頂いております。

また、フランスにおいても、取引交渉を優位に進め酪農経営の安定を図るため、近年、日本の指定団体に似た組織が結成されており、このほか、英国でも全国的な生産者組織が発足し、強化されるなどの動きがみられます。

中央酪農会議としても、受託販売事業など指定団体の役割や必要性等について広く啓発して参りますが、酪農家の皆様におかれましても、引き続き、指定団体の活動にご支援、ご協力賜りますようお願いいたします。

## ミルクで応援プレゼントキャンペーン2026

不需要期の牛乳の販売促進につなげる施策として、「ミルクで応援プレゼントキャンペーン2026」を実施しています。

このキャンペーンは、1月10日（土）～2月7日（土）に九州内のイオン及び系列店舗（イオンスタイル、マックスバリュ、ザ・ビッグ、エクスプレス、ウエルシアプラス）の合計273店舗にて、キャンペーン対象の成分無調整牛乳を購入し、レシートを撮影して九州LoveMilkClubのLINE公式アカウントより応募した方の中から抽選で賞品をプレゼントするという内容です。

キャンペーン初日となる1月10日（土）にはイオンモール福岡にてイオン九州との合同記者会見を実施しました。本会からは中村隆馬会長が出席し、栄養豊富で美味しい九州産の牛乳をアピールされ、イオン九州の椎名孝夫取締役常務執行役員と共にキャンペーンのスタートを大々的にアピールしました。

合同記者会見終了後は、牛乳と朝食を推進する「ゴクッとモーニング！ミルクプロジェクト」の活動としてLL牛乳・フルグラ・ポーション（AGF）・チラシ等の朝食セット100個を西口の農産物売り場前にて配布しました。

今回のキャンペーンの詳細につきましては下記特設サイトにて紹介していますので、こちらを是非ご覧ください。

『ミルクで応援プレゼントキャンペーン2026』特設サイト↓

<https://kyuhanren.com/milk-de-ouen2026/>

イオン九州 × 九州 Love Milk Club

キャンペーン対象の牛乳飲んで当たる!

<b>A賞</b> 2,000円相当の景品	<b>B賞</b> 1,000円相当の景品	<b>C賞</b> 600円相当の景品
バルミューズ BALMUDA The Toaster K11-KB 1台	お茶の壺 ステンレス 電気ケトル K0172-03 3台	カクログギフト 47C LUB 370円 賞状1枚 10名
<b>D賞</b> 300円相当の景品	<b>Wチャンス</b> お好きなお菓子から抽選で QUOカードPay 500円分をプレゼント!	応募はこちら QRコード ミルクで応援
イオン商品券 1,000円 100名	100名	

キャンペーン対象牛乳の購入レシート(合算)でご応募ください



合同記者会見の様子

## 牛乳川柳コンテスト2026

年始という1年に思いを巡らせるタイミングで、牛乳・酪農をテーマにした「牛乳川柳コンテスト2026」を実施しています。このキャンペーンは、1月10日（土）～2月7日（土）にかけて牛乳・酪農をお題として投稿された川柳の中から「最優秀賞」「優秀賞」「入賞」を選び、それぞれの賞に応じた賞品をプレゼントするという内容です。ただ今コンテストの作品を募集中で、入賞作品が決定した際には本会のホームページやSNSで発表します。

### 投稿例

- 風呂上がり みんなで牛乳 白いひげ
- モウ一杯 飲んでミルクを 明日もカウ
- 冷蔵庫 なくては困る 牛の乳
- 乳搾り 牛の機嫌は モーいいかい

応募期間 | 2026年1月10日（土）～2月7日（土）

牛乳・酪農（牛、牧場等）などをテーマにした川柳を詠んで、コンテストに参加しよう！

2025年最優秀賞作品  
今年も生きる  
HAPPYに  
乳YEA R

最優秀賞 1名  
LL牛乳1ケース (200ml×24本) + バター1ケース (200g×6個)

優秀賞 4名  
バター1ケース

入賞 10名  
LL牛乳1ケース

※当選者にはDMで2月下旬ごろご連絡いたします。  
※応募いただいた作品の表彰を、本アカウントまたはHPにて予定しております。

※上記は一例です。この他にも多数投稿されていますので、ぜひX(旧 Twitter)で「#牛乳川柳コンテスト2026」と検索してみてください。

## 「ゴクッとモーニング! ミルクプロジェクト」実施中!

九州では朝食を食べない人が多いという調査結果を踏まえ、リョーユーパン・カルビー・AGFとタイアップし、牛乳と朝食を推進する「ゴクッとモーニング! ミルクプロジェクト」を実施中です。

この取組の一環として、九州内のJR各県主要駅付近でサンプリングを実施し、LL牛乳・パン（マンハッタン）、フルグラ、ブレンディスティック、チラシ等の朝食セットを配布しました。



＼ 九販連公式ホームページ・SNSアカウントはこちら ／

ホームページ <https://kyuhanren.com/>  
 Facebook <https://www.facebook.com/kyuhanren/>  
 Instagram <https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/>  
 X(旧Twitter) [https://twitter.com/love\\_milk\\_club](https://twitter.com/love_milk_club)



## 酪農教育ファーム活動について

### スキルアップ研修会が開催されました！

令和8年度に改正施行される酪農教育ファーム認証規程では、スキルアップ研修会の受講は認証継続の要件から外れることが決定されています。令和7年度は制度見直しに向けた猶予期間と位置づけられ、スキルアップ研修会は任意受講としてWEB・対面それぞれ1回ずつ、ファシリテーター間の交流を主眼においたワークショップのみの内容で開催されました。

WEB形式では日本大学生物資源科学部 堀北哲也教授、対面形式では堀北教授及び酪農教育ファーム推進委員会 國分重隆委員長を講師に迎え、各講師による講演のほか、これまでの酪農教育ファーム活動の振り返り、これからやってみいたいこと等について参加者同士で話し合いました。



11月19日(水)開催 スキルアップ研修会(対面)

### 実践研究集会が開催されました！

実践研究集会は、教育関係者への酪農教育ファーム活動の普及を目的として、中央酪農会議及び日本酪農教育ファーム研究会の共催により、毎年10月～11月に開催されています。今年度は11月1日(土)に開催され、ファシリテーター及び教育関係者ら34名のオンライン参加のもと、「酪農とキャリア」をテーマとした実践発表や講演、グループ討議が行われました。

実践発表では、北海道帯広市立森の里小学校の及川貴大教諭により、近隣のリバティヒル広瀬牧場(帯広市)の協力で小学校内で子牛ふれあいファームと題した3泊4日の教育活動などを通じて、酪農や牛乳乳製品への理解を深める事例が紹介されました。

また、武庫川女子大の藤本勇二教授による講演では、兵庫県丹波篠山市立今田小学校4年生の学活、社会科、道徳の4時間を使い、北海道標津町の☆Happy Land☆安達牧場とオンラインでつないだ教科横断的な酪農、牛乳乳製品に関する授業の実践が取り上げられました。

参加者によるグループ討議では4つのグループに分かれ、酪農経営していく上での苦労などを酪農家にインタビューするなど意見交換が行われました。

#### ファシリテーターの皆様へ

認証規程の改正に伴い、令和8年度から認証継続手続きが変更されます。  
新たな手続き

- ① 毎年1回、年度初めに
- ② 前年度分の活動実態報告とともに
- ③ 「活動継続届出書」を提出

となっており、期日までに提出がない場合は**認証が取り消され、ファシリテーターとして活動するには再度認証申請が必要**となります。

詳しくは後日お知らせいたしますので、ご確認くださいませようお願いいたします。

